

## 東京都立翔陽高等学校 創立二十周年記念式典 式辞

式辞に先立ち、令和六年能登半島地震と、各地の大雨や台風などにより亡くなられた方々に深い哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災された皆さまが、一日も早く安心して暮らすことができるように復旧・復興が進むことを心よりお祈り申し上げます。

式辞。

東京都立翔陽高等学校は今年十月十四日、創立二十周年を迎えることができました。本日、この佳き日に多数の御来賓の方々や保護者の皆様に御臨席を賜り、創立二十周年記念式典をこのように盛大に挙行できますことは、私ども本校の教育に携わってまいりました者にとりまして誠に喜ばしいことであり、教職員を代表し心より御礼を申し上げます。開校からこれまでの二十年、歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様が築き上げられた土台の上に、生徒の進学や部活動の実績も向上し、単位制というメリットを活かした文武両道の進学校としての道を歩み、現在へと繋がる翔陽高校の歴史と伝統が受け継がれてまいりました。こうした本校二十年の歩みを支えていただいた東京都教育委員会をはじめ、地域の皆様、卒業生・保護者の皆様、教職員の皆様に心より感謝を申し上げます。

現在本校は、『自学・自律・自信』をモットーに、探究的な学び・キャリア教育・国際理解教育・豊かな人間性の育成に重点を置いた教育活動を展開し、探究学習の実践を通して、国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成するというスクール・ミッションのもと、日々の教育活動に教職員一同全力で取り組んでいます。単なる知識の習得だけでなく、生徒の「知りたい」という疑問から始まる真の学ぶ力を育成し、四年制大学等への進学実績の向上に結び付けています。また、体育祭、合唱祭、文化祭の三大祭への学校を挙げての取組は活気と躍動感にあふれ、部活動は運動部・文化部ともに全国大会や関東大会に出場する機会も増えています。さらに、きめ細かい個人面談やカウンセリング等により、生徒一人ひとりを大切にする教育も継続しています。こうした日々の地道な取組によって、おかげさまで今日の翔陽高校の価値が高められ、地域に開かれた学校として多くの方々から信頼を得ることができるようになりました。

ここでは、本校の地域に開かれた教育活動の顕著な取組として、「総合的な探究の時間」における活動をご紹介します。一年次では地域社会の課題解決をテーマに地元八王子市が策定した「八王子未来デザイン 2040」を基本資料として、六つの理想の都市像から一つ興味あるものを選び、そのテーマを深掘りする探究活動を進めています。生徒はクラスを横断した四人一組のグループを作り、八王子市の掲げる理想像と現状から、課題である「ギャップ」を洗い出し、そのギャップを解決するためにどのような取組が考えられるかを探究する

ことをゴールにしています。また探究成果の発表の場として、八王子市役所や八王子市内にある他の都立学校と連携し、毎年二月に合同発表会に参加しています。発表会では、市長に対して市が抱える課題について改善策を提案し、現実社会の課題を解決していくことを最終目標としています。私は、この発表会で堂々と発表する本校生徒の姿に深い感動を覚えました。

また二年次では、全国的に展開する就職支援企業が主催する「キャリア甲子園」に毎年応募しています。生徒は四人一組になり、このキャリア甲子園に参加している各企業から提示されたテーマの課題解決に向けて、探究活動を行います。一年次で探究の基礎を身に付けた生徒たちが、より高度な検証作業を行い課題解決に向かう力を発揮できるよう教職員一同支援しています。答えのない活動を通して、生徒たちの思考力、判断力、表現力、協働性を高めながら探究活動を行えるよう、探究アドバイザーとして毎年大学生数名にも探究活動の補助をお願いし、探究の指導においては個々の生徒やグループに対して細かいフィードバックや助言を行なっています。このように一年次、二年次とも学校外の機関や人たちとも連携しながら、地域に開かれた学校として探究活動を行っているのが本校の大きな特長のひとつとなっています。

さて、翔陽高校が開校した平成の時代も終わり令和の時代が訪れ、技術革新のスピードがますます速くなっている現代においては、昔と比べると驚くような変化が身の回りで起きています。社会に目を向けますと、地球温暖化による気候変動や自然災害の激化、新型コロナウイルスの蔓延など、これまで想像もしていなかった事態が次々と起こっています。他方では、人工知能（AI）やロボット、新エネルギーといった技術の革新は人類の可能性を広げています。確かなのは、これからも何が起こるかわからない不確実性の時代を乗り越えていかなければならないということです。このような困難な時代に、学校教育はどうあるべきか、本校の十年後、二十年後の姿はどうあるべきか。校長として私の考えるキーワードは、言い古された言葉ではありますが、「人づくり」と「進化」です。

まず「人づくり」について、私はそのヒントを作家・童門冬二さんの著書の中に登場する江戸時代の藩校、つまり藩の学校の創立に見出しました。江戸時代の名君と言われた熊本藩の六代藩主、細川重賢（しげかた）は、「財政難の時こそ学校を興して人材を育成すべきである」と考え、藩校「時習館」を作りました。この時、重賢が学長に命じた秋山玉山（ぎょくざん）に言った言葉が有名です。童門さんの著書から少し引用します。「秋山先生、人づくりというのは木づくりだと思っていただきたい。すなわち、あなた方、人づくりに励む先生は、国家の名大工さんです。名大工さんは、苗木の時代から心配りをして木づくりを行います。これは何の木かということを見抜いて、一本一本の木に肥料を与え、剪定をし、あるいは添木（そえぎ）をします。人づくりも同じです。つくられる人がどういう性格で、どう

いう能力を持っているかを見抜いて、それに合った教育を施してください」。この重賢の言葉に私は感動と共感を覚えました。本校で目指す姿も、こうした生徒一人ひとりの個性や可能性に寄り添う教育だと考えています。

次に「進化」については、進化論で有名なダーウィンの言葉からヒントを得ました。それは「強い者、賢い者が生き残るのではない。変化できる者が生き残るのだ」という言葉です。次の十年、二十年に向けて、本校もこれまで積み重ねてきた伝統を守りつつ、持続可能な新しい時代に求められる教育を充実させ、グローバルな視点でより良い学校になることを目指して進化を続けていかなければならないと考えています。その進化の積み重ねが新たな伝統となって続いていきますが、それを受け継いでいくのは在校生の皆さんです。皆さんは失敗を恐れず何事にも積極的にチャレンジしてください。そして困ったときや迷ったときは遠慮せずに周りの先生方に相談してください。皆さんの力になれるよう、これからも学校として全力でサポートしていきます。在校生の皆さんがより充実した学校生活を送れるよう、また皆さん一人ひとりの個性を尊重し誰一人取り残すことのない学びの場を提供できるよう、私も校長として誠心誠意努めて参ります。皆さんと翔陽高校の前に洋々たる前途が開かれることを祈念いたしまして、私の創立二十周年に向けての祝辞といたします。

本日は第一部の式典の後、第二部として、本校吹奏楽部、和太鼓部、ダンス部による公演がございます。本校の生徒たちによる躍動感あふれるステージをご覧いただければと思います。

最後になりますが、創立二十周年記念事業をはじめこれまで本校の教育活動に御支援と御協力をいただいていた参りました東京都教育委員会、PTAサポート隊を始めとする保護者の皆様、本校同窓生ならびに地域の皆様方に対し心より御礼申し上げますとともに、来賓の皆様におかれましては、今後なお御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和六年十一月十六日

東京都立翔陽高等学校長 博田 英明